

週休2.5日制の取組

事業所概要

- ・事業所名：社会福祉法人浩和会 竹の里園デイサービスセンター
- ・サービス種別：通所介護 / 予防給付型通所サービス（定員：25人）
- ・プロジェクトメンバーの構成（管理者兼生活相談員、介護職員、事務員）

取組に至った背景

〇日々の業務が追いつかず、正職員が時間外勤務で対応する状況が続いていた。さらに、休憩が十分に確保できない等、職員の負担が大きいことが課題となっていた。このような状況を改善し、生産性向上と働きやすい環境づくりを進めるため、伴走支援の取組みに至った。

課題解決のプロセス

●Step1

送迎、残業、休憩不足、間接業務の負担など、「時間の使い方」に関する問題を整理

●Step2

勤務時間と業務内容が合っていないこと、コップ洗い（配茶用、口腔ケア用）や手書き記録が非効率であること、月末に事務処理が集中することなどを把握

●Step3

週休2.5日制の試行（1日9時間勤務）、各々が利用する専用のコップ（約17人分）から紙コップへと変更することで食器洗いに係る時間の効率化を図り、加えて、手書き様式の重複内容を削除するなど省力化を実施

●Step4

Step3までの振り返り。
1日あたりの職員数が減ったため業務負担が増えており、再度、休憩時間の変更、掃除内容および回数を変更

取組効果

【質的な効果】

- (1)送迎の早出が業務時間内に組み込まれ「サービス早出」がなくなり精神的ストレスが軽減
- (2)17時以降の送迎も勤務時間内となり、「帰れない」「残業になる」という不安がなくなった
- (3)掃除方法の見直しにより業務時間内で清掃が終了
- (4)PC入力を日々の業務内で行えるようになり、月末の「業務が偏るストレス」がなくなった
- (5)休憩を取りながら業務をする「休憩にならない休憩」が解消

【量的な効果】

- (1)月平均残業時間(4名の正職員)： **約8割削減**
- (2)コップの手洗いを紙コップへ変更したことで**1日約60分短縮（1回あたり約10分短縮）**
- (3)休憩時間の確保:休憩しながら業務はなくなり**全職員が1時間休憩**

同様の取組を検討している事業所へのアドバイス

- ・現状の「業務量」と「ひっ迫時間帯」を正確に把握する。
- ・1日9時間、週休2.5日など、柔軟な働き方は職員の負担軽減につながるが、制度的な整合性を必ず確認する。
- ・体制変更だけでは負担は減らないため、ムダな業務の見直しや手順の統一が不可欠
- ・「働く環境を良くしたい」という共通の思いを大切に、前向きな検討→実行→評価の流れを習慣化する。
- ・大胆な案も一度は受け止め、試行し、改善していく姿勢が組織の成長につながる。